

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402093		
法人名	有限会社 たすかる		
事業所名	グループホーム たすかる		
所在地	長崎県南島原市深江町戊2975番地2		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	令和5年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心して楽しく生活が送れるよう支援しています。利用者様の希望は、できるだけ叶えられるように職員が共通の意識を持って、レク活動や行事の計画、ホームでの食事にも季節の物を取り入れたり、ホットプレートを使用し、自分達で作り食す喜びなど味わっていただき、食に対しても力を入れています。現在も施設内への面会は控えさせていただいていますが、玄関先や窓越し面会、電話などで接する機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雲仙普賢岳の麓の閑静な住宅街にあるホームで、近隣には保育所や八角堂(仏閣)に隣接しており、日頃より地域住民との交流や接点が多い。平成16年に開所し、和室や中庭を備えたA棟と、令和3年5月に新築・移転した最新設備を備えたB棟がある。理念に「老いても障害があっても、地域の中で、生き生きと安心できるサービスを目指す」と掲げ、全ての職員が入居者や家族と共に「毎日明るく、笑顔で語り合える」ホーム作りに取り組んでいる。日頃より、小物やパズル作り、近くの店舗へ買い物に出かける等、入居者が望む過ごし方を実現できるように支援しており、ホーム毎に新型コロナウイルス感染を予防しながら敬老会を開催する等、入居者一人ひとりの暮らし方を尊重しながらも、過ごしやすさを大切にしている事が伺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、事業所の事務所の診える所に掲げ、日頃より職員個々が実践に繋げられる様に努めています。	理念はリビングの見える所に掲げ、日頃から意識して実践できるよう努めています。	理念を「地域の中で、生き生きと安心して生活できるサービスを目指す」と定め、ホーム入口やリビング内に掲示している。管理者及び全職員が理念を周知し浸透を図りながら入居者一人ひとりが望む暮らしを実現できるよう家族や地域と協働した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、中々交流を持つ機会がありませんが、近隣の保育園児の散歩時、声かけ合ったり、推進委員の方から、マスクや、グローブ、消毒液などの提供があり、間接的なつながりがあります。	コロナの影響で、交流はほとんどできていないが、窓越し面会や推進会議資料で施設の状況を伝えていきます。	日頃よりホーム周辺を散歩したり、近くの商店へ買い物に出かける中で出会う地域住民との挨拶や会話がある。また、コロナ禍の影響はあるものの、窓越しや玄関先、庭先で家族や友人と面会もでき、入居者が住み慣れた地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を行った際、自治会長をはじめ、民生委員、ご家族代表、推進委員、広域の方に参加していただき、情報の公開を行っています。また、情報を共有したうえで、意見や情報をうかがえるように努めている。現在は、コロナの影響により、資料配布にて情報を伝えていきます。	推進会議へ自治会長、民生委員、御家族、推進委員、広域へ参加していただき、情報を公開しています。現在は、コロナの影響により資料配布にて情報を伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、推進会議自体は、実施できていないが、資料配布時に、地域情報の共有、意見等を伺えるように努めている。	推進会議は開催できていないが、資料を配布した際に、地域の情報やアドバイスなどをいただいています。	運営推進会議はコロナ禍の影響により、書面会議を開催している。家族代表、地区会長、民生委員、推進委員、広域圏(市町村)担当者、ホーム代表者、管理者等が参加している。ホームより入居者の暮らしぶりや、消防避難訓練の様子、身体拘束を行っていない現状等を伝えており、構成メンバーからの意見を受けることでサービスの向上に活かしている。	書面による会議であっても可能な限り双方向の会議が求められるため、例えば開催案内文を郵送する際にメンバーの質問や意見を収集するための書面を同封するなど、各メンバーから質問や意見を受けることができるよう工夫することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域との連携、また、障害をお持ちの方がいらっしゃるの、病院受診時、手話通訳の方の派遣でお世話になったり、生活保護の方の情報の共有などを通じて、連携が取れる様に努めている。	直接広域へ尋ねたり、電話対応などで分かりやすく指導をいただいています。	日頃より管理者が市町村担当者と電話や面談により連絡を取り入居者の日頃の生活や今後の支援を検討している。発語障害のある入居者の病院受診時の手話通訳者の同行支援を検討するなど連絡を密に取り協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを念頭に、利用者様に寄り添い、外気浴や、手作業など一緒に対話を行いながら実践し、気分転換を図り支援できるように努めています。	施錠はせず、帰宅願望や外出希望が強い利用者様へはマンツーマンで対応を行い、外気浴や周辺散歩、中庭などへの外出支援を行っています。	身体拘束に関する指針を整備し、職員一人ひとりに周知して身体拘束をしないケアに努めている。定期的に研修を開催し、身体拘束に関する具体的な行為や対応方法を全職員が理解できるよう研鑽し、ホーム全体で身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、施設内研修やオンライン研修で学ぶ機会を設け、職員一人一人が、意識をもって、利用者様により良いサービスができる様に努めています。また、利用者様の日常生活の中で、傾聴を行い、表情や身体状況の観察・把握に努めています。職員間で、情報の共有を行い配慮しています。	利用者様の表情や身体を常に観察し、職員間の情報の共有に努め、少しの事でも全員が把握できるようにしています。又、施設内研修、オンライン研修で学ぶ機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や、パンフレットなどで、知る機会はありますが、成年後見制度などは、利用される相当の方がいらっしゃらず、活用までには至っていません。学ぶ機会を持ちたいと思います。	資料などで学ぶ機会はあるのですが、まだ活用できるまでには至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、管理者が説明を行いながら書面にて契約を結んでいます。双方で一部ずつ保管するようにしています。、退所時(死亡、他施設への入所)は、退所同意書を発行し同意を得ています。	契約、解除、改定の際は十分な説明、理解、納得を得たうえで契約書、同意書を発行し、御家族、事業所お互いに保管するように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の想いが伝えられない方は、御家族へ、代弁していただき、緊急な状況になられたときでも、対応できるように努めています。	利用者様には何でも話しやすい雰囲気作りを心掛け、御家族とも細目に連絡を取り合い、思いや意見を聞き入れ反映に努めています。	職員は日頃より入居者本人から意見や要望を傾聴し、寄り添う支援に努めている。家族からの要望等は面会時や電話による相談時に直接伺い、いつでも職員が聴き取りを行っている。出された意見や要望等はホーム全体で共有し、迅速に運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、平素より、話しやすい雰囲気を提供できる方で、会議以外でも、自ら、意見や、話を聞いてもらえる状況にあると思います。又、業務に反映できる用に努めている。	ケア会議や個々で意見や提案を聞き、管理者会議などで話をあげ、共有反映に努めています。	ホームの代表者や管理者は、毎月開催するケア会議や、日頃の業務の中で職員が気軽に意見や提案を話せるような雰囲気づくりに取り組み、迅速に運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や、勤務状況を管理者が代表へ報告し、評価され、個々の就業環境整備へ反映され、各自のモチベーションがアップするように努めています。	職員の努力や実績、勤務状況を管理者が代表へ報告し、把握されたうえで更なる向上につながるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成に力を入れ、直接指導されたり、会議などで情報の共有化を図り、実践に活かせるように努めています。	オンライン研修や資料を配布し、職員育成に力を入れ、直接指導したり、会議等で話し合い実践に活かせるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、現状、交流などは難しい状況にありますが、外の行事や活動を通じて交流できる場を設け、互いの向上に取り組んでいる。	他事業所との交流は難しい状況だが、オンライン研修で勉強会へ参加。連絡を取り合い、情報交換を行っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	パンフレットを使用し、施設見学や入所相談を受け、御家族様や、担当ケアマネより、情報収集を行い、困りごと、不安なこと、要望などに傾聴し、提案などを行い、少しでも安心して信頼関係ができる様に努めています。	施設見学や入所の相談、体験入所など行ったり、家族様やケアマネより情報収集や協力をいただき、信頼関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごと、不安ごと、要望など傾聴し、状況の把握を行い、プランに反映し、サービスに繋げられる様に努めています。	状況の把握、希望要望などを傾聴し、プランに反映するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行ったとき、必要とするサービスに繋がられるように、傾聴し、支援の方針やサービスに反映できるようにプランに盛り込んでいる。	相談内容により、支援の方針やサービス内容をプランに盛り込めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで培ってこられたことを労い、信頼関係を築き、共同生活が、互いに継続できるように、努めています。	共同作業、共感し合い、寄り添い、信頼関係を築くと共に毎日を楽しく生活していただけるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所され利用者様と御家族が、今までの関係性が継続できるように面会時や、毎月のおたよりなどで、利用者様の状況報告を行い、御家族の要望、意見を聴けるように心がけている。	利用者様と家族様の意思を尊重し、話し合い、両方が望まれるベストな支援ができるように努めています。毎月のお便りや定期的な連絡にて状態を報告し、家族様の意見も聞くように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のこれまでの馴染みの関係を大切にするために、玄関先や、窓越しでの面会を行い、一緒に写真撮影を行い、居室に掲示し、関係が継続できるように努めています。	現在、玄関先での面会、又は窓越し面会を対応させていただいています。友人、知人の方からの電話も本人様へお繋ぎし対応しています。	入居者が入居前から利用している美容室に通ったり、家族の墓参りに行く事を職員が支援している。また、家屋や友人の面会も、窓越しや玄関先でできるよう取り組んでおり、入居者が慣れ親しんだ人や場所との関係を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や、行事など参加していただき、利用者様、職員協働で楽しめる時間を設け、関係性を深めるためには、職員が仲介し、談話や余暇活動を利用して関わり易い工夫ができる様に努めています。	共同作業や行事へ皆様に参加していただき、利用者様同士の関わりを増やすよう心掛けています。普段から、できるだけリビングへお誘いし、職員も含めた談話や雰囲気作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、御家族様より、マスクやグローブ、消毒液をいただいたり、また、推進委員を務めて下さり、地域情報なども共有できるところもあります。他の方の相談もあります。	退所されてからも、家族様から時々連絡があったり、野菜などのおすそ分けも度々いただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話や生活状況から望む生活、暮らしを抽出し、少しでも希望に添えるように努めています。また利用者様本位で配慮、職員が情報の共有を行い話し合いを行う。	会話などから希望や思いを聞き出し、ケア会議などで話し合い、共有し、意向に沿えるよう努めています。	担当職員が入居者一人ひとりの表情や会話の内容を個人記録に残し、職員全体で入居者の希望や意向の把握と、本人本位の生活支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族、担当ケアマネより、生活歴、生活環境、これまでの情報を基にプランサービスに繋がられるように努めている。	生活歴、環境、大切にしてこられた情報を把握し、プランや支援経過に反映できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状況を把握、職員間で状況を共有し、その方の残存機能が継続できるように努めています。	一人一人の状態やペースに合わせて職員が把握し、安心安全に生活ができるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で、利用者様一人一人の状況を評価し、課題分析を行い、利用者様やご家族の意向を反映できるように、現状に応じた介護計画になるように努めています。	利用者様のニーズ、家族様の意見を取り入れ、ケア会議で話し合い、現状に適したサービスが提供できるように介護計画を作成しています。	管理者は直接入居者や家族にモニタリングを行い、担当職員から入居者一人ひとりの状況と課題を聴き取っている。毎月または必要に応じて随時開催するケア会議にて課題分析を行い、入居者が本人本位に暮らせるよう介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や特記を個人記録や業務日誌に記載し、申し送りし、職員間で共有。また、毎日のサービス内容のモニタリング評価、ケア会議時の気づきに記載し共有している。	個人記録、日誌へはありのままを細かく記入し、全員が把握するようにしています。又、変化があれば早期対応、共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に応じた支援、行政機関に対する、手続きの支援や、その時々起きたニーズに対応できる様に支援しています。その際には、御家族へ報告や相談などを密に行い、個々の支援に繋がられる様に努めています。	状況や状態に応じて出来る限り対応し、又、個別支援などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様共同で作成した、貼り絵や習字などを文化展へ、出品し、展示中に観覧できるように努めている。また、お正月には、利用者様を、初詣にお連れし、お参りし、お守りを購入していただき、一年の無病息災を祈願できるように努めている。	文化展などに、手作業の貼り絵や編み物などを出展し、自分達で作り上げた喜びを感じていただけるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の説明を行い本人、御家族の意向を大切に、受診でき、医療へ繋げられる様に努めている。また、かかりつけ医の往診も可能。医療連携の看護師が居るので、状態の報告、連絡、相談ができるため、指示がもらえる状態である。看取り介護も行っているため、協力医との連携で支援ができています。	かかりつけ医の受診、往診、訪問看護もあり、状態報告・指示、少しでも異常があれば相談、受診ができるような体制がとれています。	毎月1回、連携医による訪問診療があるが、入居者が希望する医療機関への受診も可能である。入居者及び家族の希望に応じて職員が病院受診の送迎や付き添いを行っている。受診結果や主治医の助言についても職員間で共有し、家族には受診結果を電話等で伝える等、医療と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や気づきなどがあれば、職場内の看護職や、医療連携の看護師へ報告、相談ができる体制である。また、協力医の看護師へも報告、相談ができる。	気づき、変化があればすぐに看護師へ報告し、適切なケアや受診ができるように努めています。又、1週間に1回訪問看護師へも状態を報告し、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者さまの入院時は、現状のサマリーを提供する。入院されてからは、情報の共有の為、担当看護師や、相談員の方との連携に努める。	入院時や入院中の情報交換は心掛け、医療機関から家族様への説明時も可能であれば同席させて頂き、把握、適切な支援ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、重度化した場合や終末期の在り方を、本人、御家族等と一緒に話し合い、当ホームでできることを説明し、緊急時、最期をどこで送りたいか等確認書を作成し、方針を共有できるように体制を取っている。しかし、あくまでも希望であり、いつでも変更は可能である旨の説明も、行っている。	入所の際、現在の希望、状態の変化と共に主治医、御家族、看護師、管理者との話し合いを行うようにしています。事業所で出来る事を十分に説明した上で、医療機関や看取りの希望を決めていただいています。	ホームでは看取り支援に取り組んでおり、看取り指針やマニュアルを整備している。看取りについて入居時及び主治医が看取りと診断した場合に家族等に説明し、同意を得ている。最期まで家族や医療と連携しホーム全体で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は、消防訓練時、実践講習を受けている。急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員が把握し、対応できる様に努めている。	蘇生法の講習。急変、事故発生時のマニュアル作成し、全職員が把握、対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に備えての避難・消火訓練など年2回、日勤帯と、夜間帯に分け実施している。自然災害(地震、水害等)は、地区の防災マップ作成、及び避難ルート把握している。訓練の実施までには至っていない。火災予防対策として、毎日、防火点検として、コンセントや誘導灯、非常口の点検を行っている。	火災に備えての避難訓練を年2回実施。自然災害に備えては、地区の防災マップ作成、及び避難ルート把握している。しかし、訓練の実施までには至っていない。火災対策として、全てのコンセントの点検・掃除を定期的に行っています。	年2回、消防避難訓練を行っており、いつでも安全に避難できるよう取り組んでいる。夜間を想定した訓練では、夜勤1人体制の職員を想定し、実際に1人で火災発見・避難誘導訓練を行っている。また、居室や共用空間のコンセントの点検・清掃、避難誘導灯や非常口の点検を日頃より行っている。	自然災害訓練が行われていないため、地震や風水害等の自然災害を想定した訓練の実施が望まれる。また、備蓄品のリストはあるが、B棟のリストには個数の明記が無いため、A棟と共通のひな形を使用し、残しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け、対応は、利用者様の人格を尊重し、プライドを傷つけない様に心掛け、一人一人に合った対応を行えるように努めている。	声掛けや対応は、利用者様の気持ちを害しないよう心掛け、一人一人に合わせた対応を行うよう努めています。	職員は入居者や家族、職員同士や地域の住民等に対して丁寧な言葉づかいを心がけており、常に相手の人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対話を行うよう努めている。	居室で夜間帯に使用するポータブルトイレが、廊下から見えるような形で置かれていた。日中は使用することがない場合は、入居者の自尊心に配慮するためにも、日中は布等で目隠しを行ったり、あるいは居室以外の場所へ移動する等配慮することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様の思いや希望が伝わり、自己決定ができる様に、分かり易く説明し、自分でできることは、行っていただける様に声掛けを行っています。	レク活動の際や会話の中で、思いや希望を尋ね、活かすよう努めています。日常の事も出来る事は奪わず、できるだけ自分で行っていただくようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者様本位であり、一人一人のペースに合わせ、また、傾聴することで個々の想いをくみ取り希望に添える様に支援している。	食事、入浴の他に、個別リハビリ・体操・手作業など本人様の意思やペースに合わせて組み組んでいただいています。一人の時間を好まれる方も、居室・リビングのバランスを考え過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの介助や、爪切りの介助の実施。整髪や、入浴準備を行う際に、本人様に尋ねて準備している。困難な方は、職員が選んで差し上げている。	1～2ヶ月に1回散髪。ケア時、顔剃り・髭剃り実施。洋服選びも可能な方は自分で、困難な方は同じ服をできるだけ避けるよう職員が選んでいます。化粧水やマニキュアも塗られています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事手伝いは、困難な為、できていない。しかし、2～3か月に1回のペースで、バイキング形式で提供し、好みのものが、自分で選んで食べられる様に支援しています。また、ホットプレートを使用しおやつを作ったり、おやつのととピングを自分で行っていただき、自分で作った達成感を感じて頂いている。	調理の下拵え、テーブル拭き、下膳拭きを役割として利用者様が行っています。食欲が倍増するよう好みの物や季節の物をメニューに取り入れたり、定期的にホットプレート料理を実施し、自分達で作って食べる喜びを感じていただいています。	食事は手作りで調理し、地元の商店から配達される旬の食材を使用して提供している。敬老会では祝い弁当、誕生会では誕生日ケーキ、あるいは入居者とホットケーキを焼いてクリームや果物を飾るなど、季節や行事に応じた食事を提供し、入居者の食欲や食事に対する楽しみが増すよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し、摂取量などの把握ができる様に努めている。また、嗜好調査を行い、一人一人の好みを把握できるようにしている。食べれないものは、代替品を用意し提供。摂取状況に応じて、ペースト状、一口大、刻みなど、その方にあった食事形態で対応できるように工夫している。	食事、水分量は記録に残し、チェック、把握し健康管理に努めています。食事や水分が中々入らない方は、時間を置いたり、好みの物や味付けの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口臭や、食物残渣がないように支援しています。自分でできる方は、自立支援、出来ない方は、介助を行っている。	毎食後、口腔ケアの徹底、異常があれば歯科受診・往診を行っています。義歯の方は、毎晩ポリドント洗浄を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン、週間に合わせ、トイレ誘導を行ったり、おむつ点検交換を行っている。また、時間帯で尿量が異なる為、パットの使い分けを行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、定期的にトイレ誘導、声掛けを行い、失敗が軽減できるよう努めています。	職員は、毎日、排泄チェック表に入居者の排泄状況を記録し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。その上で個別にトイレ誘導や声掛けを行い、失禁の減少や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を取り入れたり、排便がない時は、腹部マッサージを行い排便を促したりしている。水分補給をしていただいたり、消化の良いものや乳製品の提供、最終的には、緩下剤を主治医に相談し、処方していただく。	適度な運動で腸の活性化、腹部マッサージや内服、又は坐薬で調整、消化の悪いものはできるだけ避け、刻むなどの工夫を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時期にあった、しょうぶ湯やゆず湯などを行っている。入浴日は、曜日で覚えたり、一日おきであることを理解されている方もいらっしゃる。基本、月・水・金曜日に実施。拒否がある方は、時間や順番をずらしたりして対応している。	入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯を取り入れています。拒否がある方は、声掛けの工夫や時間を置いたり、曜日を変更するなどの対応を行っています。	週3回の入浴を基本に支援している。入居者の体調や気分に応じて翌日にも入浴を支援するなど柔軟に対応している。季節を感じてもらいながら入浴を楽しめるよう菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用し入居者の満足度を高めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人、就寝時間が異なり、その方にあつた時間に対応している。また、日中でも傾眠が多かったり、体の傾きや、頭痛などある時は、一人一人の状況に合わせて、休息時間を設けている。	一人一人の意思を尊重し、休憩や就寝時間も個別に対応し、安心して休めるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は、職員が管理をし、一人一人の処方薬の理解と服薬時間や用途を理解し、服薬支援を行っている。また、誤薬がないように名前の確認、時間帯の確認を行い服薬介助を行っている。頓服薬の服薬も症状に合わせて支援している。症状、特変がある時は、Drに相談し指示を頂くようにしている。	内服は職員が理解し、服薬支援を行っています。服薬前は職員同士で確認し、誤薬がないよう努めています。症状や状態に変化があれば主治医へ相談し、指示をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響で、今までできていたドライブや、外食、ショッピングなどできない分、1か月に2回以上は、行事を行えるようにレクレーション担当者が、計画を立てて行っている。外気浴や、散歩など取り入れ気分転換を図れるように工夫しています。本人の趣味なども取り入れています。	行事は利用者様の希望を取り入れたり、個人の力量に合わせて、役割やお手伝いへ取り組んでいただいています。コロナで外出は控えさせていただきますが、外気浴などで気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は、控えています。外庭の散策や、外気浴などは、その時の状況で行っています。お盆には、親御さんのお墓参りと、一周忌のお参りに関連の共同の位牌堂、納骨堂に出かける予定です。12月には、盲聾啞者あかり会のクリスマス会に参加予定(コロナ感染状況次第)	コロナで外出は控えさせていただいていますが、密を避け、自宅やお墓参り、中庭などの外出支援を行っています。	入居者一人ひとりの希望に応じて、ホーム周辺を散歩したり、近くの店に買い物に出向くなどのほか、墓参りを支援するなど、気軽に戸外に出かけられるよう支援している。また、コロナ感染に注意しながらドライブや公園に出かける計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理し、思うように買い物ができることは、望ましいライフスタイルだと思いますが、保管管理ができず、被害妄想などに繋がることもある。コロナ前は、年2回のイオンへ、ショッピング、島原初市に外出しショッピングの支援を行っていた。また、本人様の希望時は、支援を行っている。	お金の管理ができる方は、家族様了解のもと、おこずかい程度、所持していただき、希望される際に使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族へ電話をかけ会話をし頂く支援を行っています。手紙は、字を書くことが難しい状態になられている方が多い。	定期的に電話や動画、手紙のやり取りなどの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、快適に過ごしていただける様に、生活感や季節感に関しては、行事の写真や、季節・行事にあった掲示物などを掲示している。共用スペースが広いので、室温の配慮。全体に室温が安定できるように壁掛けの扇風機などを使用。風が直接当たると、寒さを感じる方もいるので配慮している。	共用空間は快適に過ごしていただけるよう、行事の写真や利用者様作成の貼り絵、塗り絵を掲示し、季節の物や花を取り入れています。	共用空間は窓から外の光を多く取り込み温もりを感じられる。木材をふんだんに使用した造りで、リビングや廊下には入居者が制作した塗り絵や貼り絵のほか入居者が過ごした日々の写真等が掲示されている。ホーム内には季節の花や絵画を飾り、入居者が季節を感じながら暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際には、ソファを置き、くつろげる空間作り、ホール内が広いので他の場所にもソファを設置し、テーブルの席だけではなく、他の方がいる空間で安心して休めることを目的にソファベッドを設置している。対話や手作業ができる方向士のテーブルの席の設け方の工夫など	日当たりの良い場所に、ソファや椅子、玄関先にベンチを設置、利用者様同士で過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、在宅で使用されていた馴染みの物品などを置くことで、今までの本人様の生活スタイルが、維持でき、かつ不安解消にも繋がれたら居心地の良い空間が提供でき、また、家族写真や、お友達などの写真を置くことで、色々な会話等の材料に繋がられる。	各居室には、思い出の物(家族写真や馴染みの物)など持ち込んでいただき、その人らしく住みやすい居室空間であるようにしています。	入居者が入居前の暮らし方で生活できるよう一人ひとりの居室毎にベッドや家具の配置を入居者及び家族等と検討し対応している。入居者が安心して暮らせるよう、仏壇、家族写真、冷蔵庫、机、椅子、パズル、手作りの小物等、入居者や家族が望む物を持ち込めるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人のADLの状態にあった生活スタイルが安全に確保できるよう、居室の場所の選び方、視聴覚障害がある方には、その方の動線にあった配慮など、また、居室で過ごされる為には、スムーズな移動が安全にできる様に配慮できるように工夫しています。	今までの生活の中でされてきた家事や手作業など、現在の残存機能を活かし、個々に合った、出来る事を支援しています。		